

リケンテクノス株式会社

2016年3月期

決算説明会

2016年5月25日

- 決算概要
- 事業の概況
- 新3カ年中期経営計画

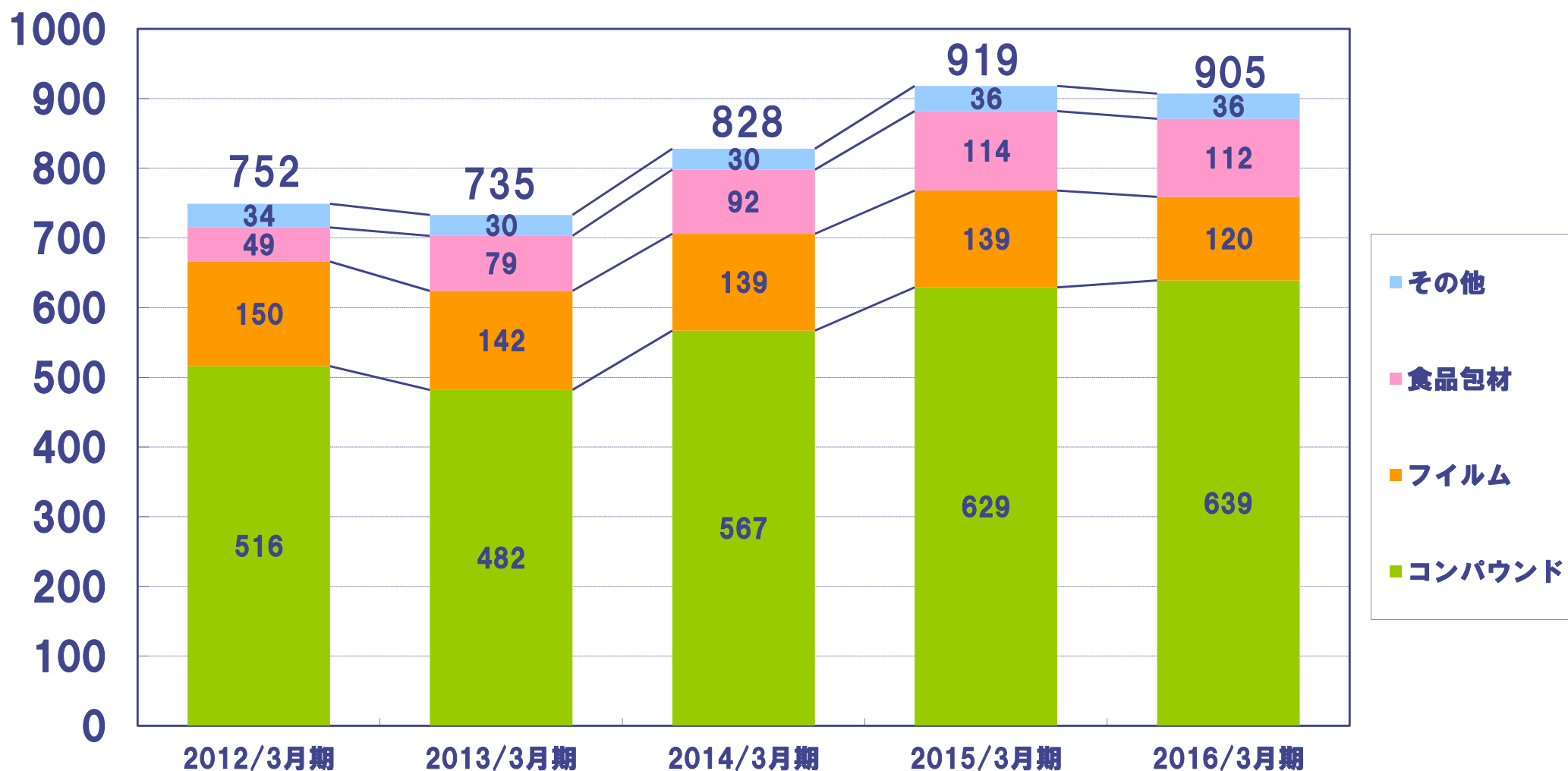
決算概要

単位：百万円、円

科 目	2016年 3月期	2015年 3月期	前期比	増減率	2016年3月期 業績予想	達成率
売上高	90,589	91,938	▲1,349	▲1.5%	101,000	89.7%
売上総利益	16,149	14,011	+2,138	+15.3%	—	—
営業利益	5,084	3,652	+1,431	+39.2%	5,000	101.7%
経常利益	4,931	4,062	+868	+21.4%	5,300	93.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,482	1,900	+581	+30.6%	2,700	91.9%
1株当り利益	41.41	31.74	+9.67	+30.5%	45.07	91.9%

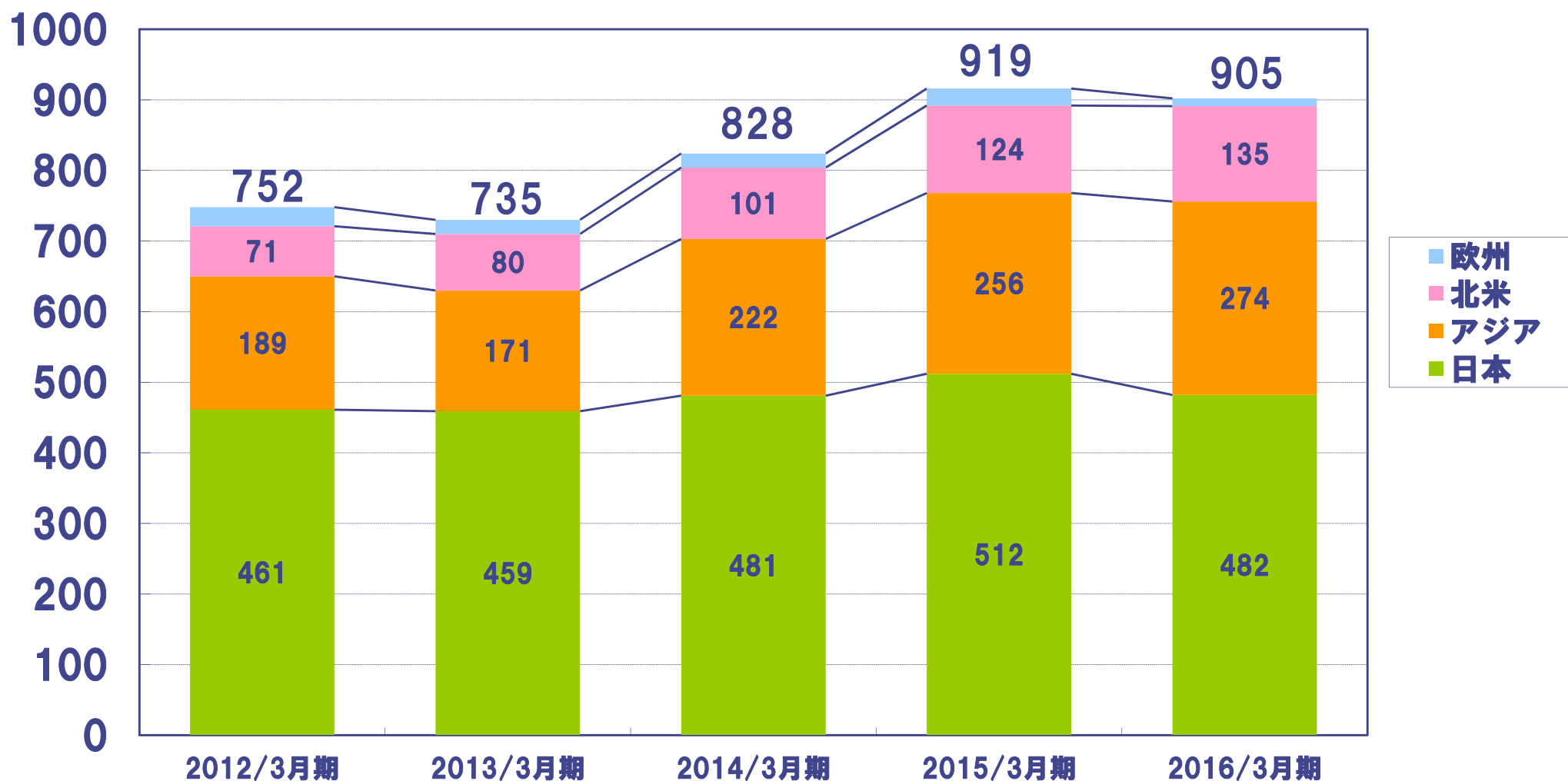
2016年3月期 売上高 905億円
前期比 ▲1,349百万円減 (▲1.5%減)

単位：億円

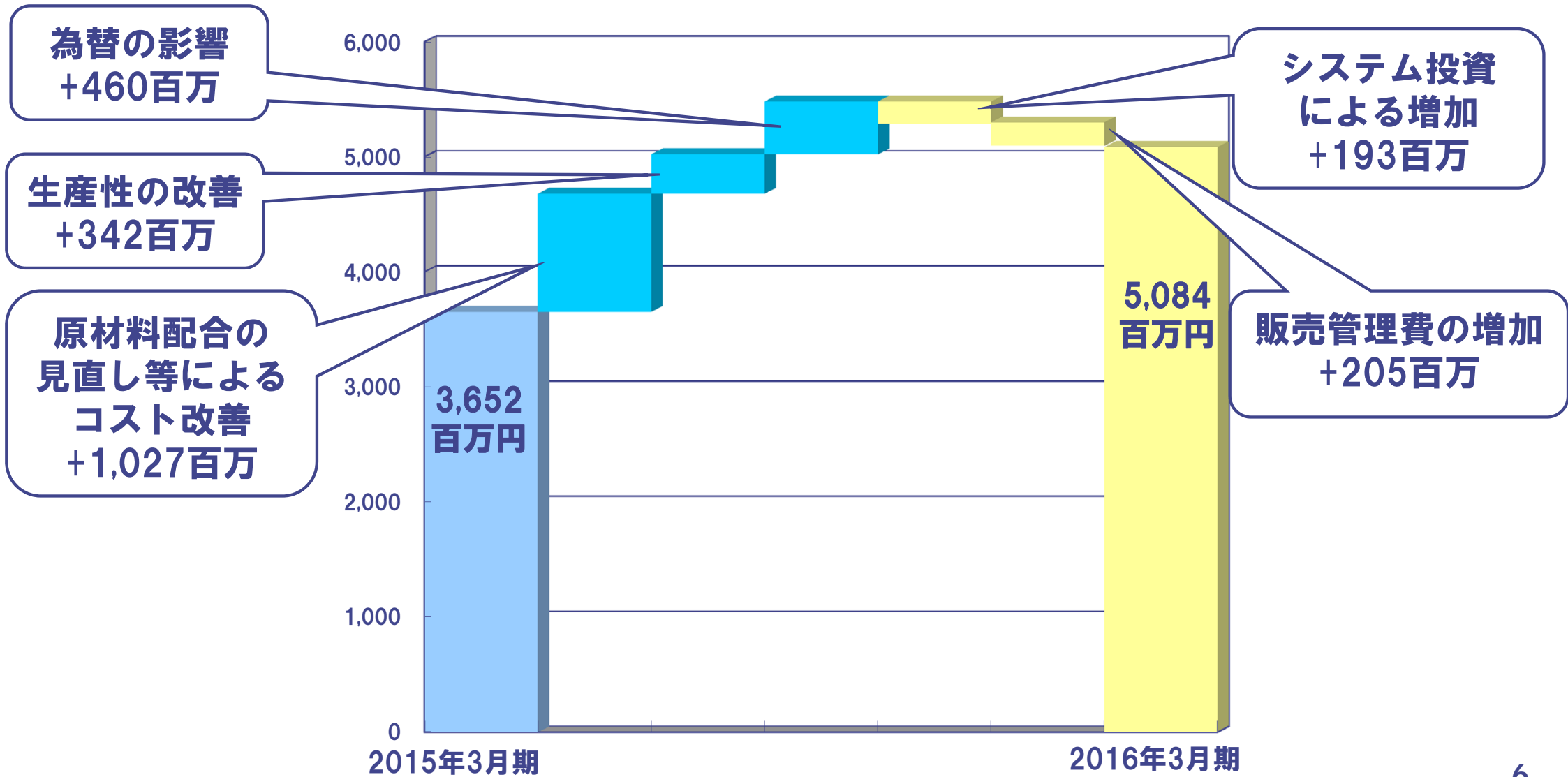


2016年3月期 売上高 905億円
前期比 ▲1,349百万円減 (▲1.5%減)

単位：億円



営業利益 5,084百万円 前期比 1,431百万円増益



連結貸借対照表

キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

資産合計

84,157百万円

前期末比 1,929百万円減

流動資産 48,867百万円

固定資産 35,290百万円

負債合計

37,410百万円

前期末比 3,452百万円減

純資産合計

46,746百万円

前期末比 1,523百万円増

当期 前期比

営業CF 6,825 +2,450

投資CF ▲6,607 ▲2,134

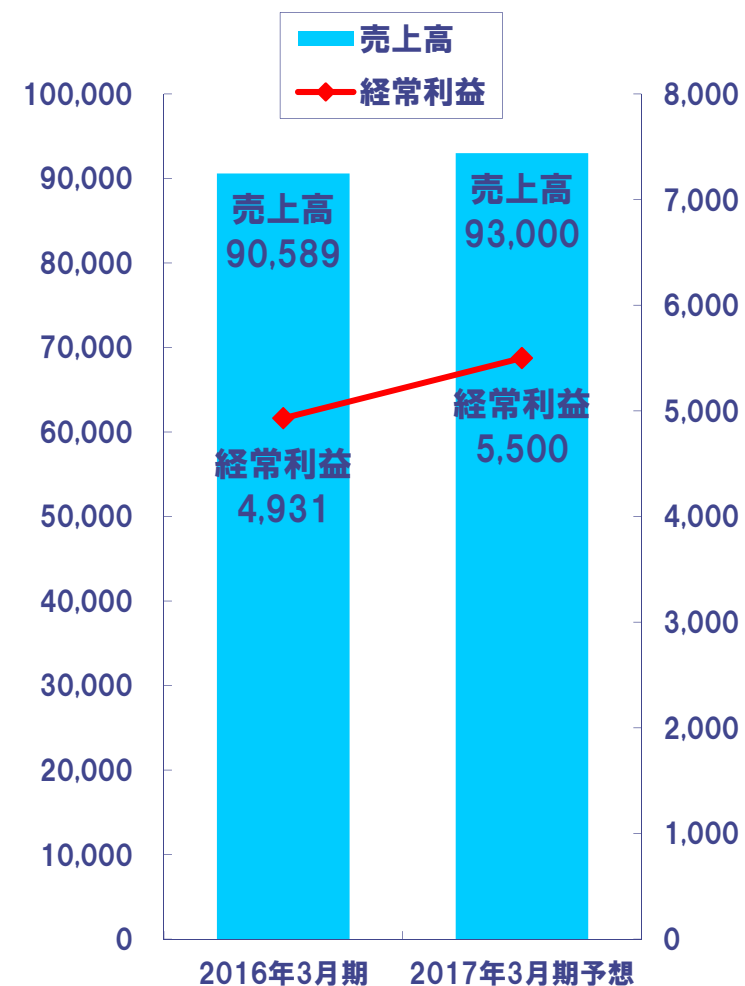
財務CF ▲526 ▲2,615

増減額 ▲537 ▲2,819

期末残高 13,444 ▲537

科 目	2017年3月期 業績予想	2016年3月期 実績	伸び率
売上高	93,000	90,589	+2.7%
営業利益	5,500	5,084	+8.2%
経常利益	5,500	4,931	+11.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,600	2,482	+4.8%
1株当り利益	43.36	41.41	+4.7%

(単位：百万円、円)



【業績予想のポイント】

- 国内においては、生産性改善による収益改善と新規拡販
- 海外においては、投資した設備を活用し重要地域での需要を取込み増収増益

事業の概況

上海理研塑料有限公司
2016年9月 稼働予定



リケンベトナム
カンパニーリミテッド
2016年7月 稼働予定



リケンエラストマーズ
コーポレーション
2016年7月 稼働予定

2016年4月1日

執行役員制度の導入

＜業務執行権限の大幅委譲＞

2016年6月24日
(定時株主総会)

監査等委員会設置会社へ移行

＜3分の1以上を独立社外取締役で構成＞

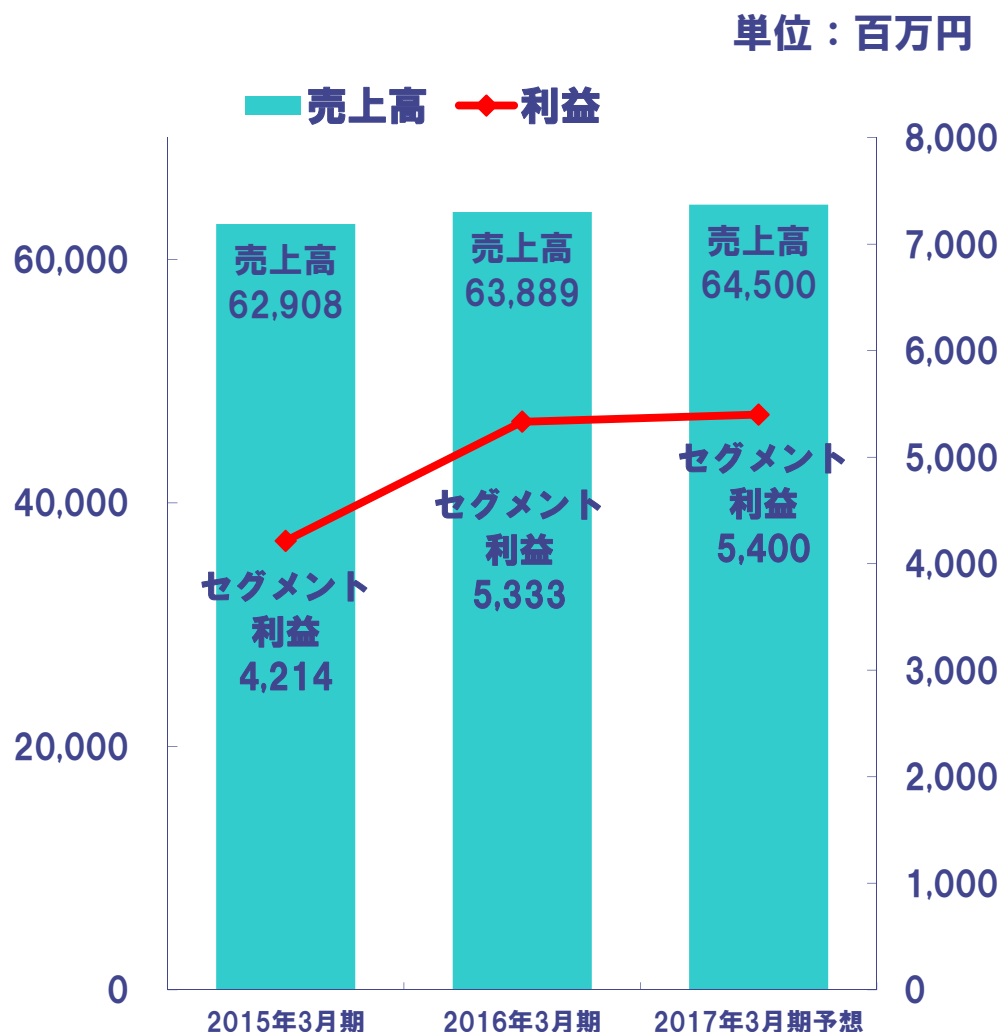
指名委員会・報酬委員会の設置

＜過半数を独立社外取締役で組織＞

2016年8月
(予定)

株式報酬制度(株式給付信託)導入

＜役員報酬制度の全面的見直し＞



2016年3月期

981百万円増収

1,119百万円増益

前期比1.6%増

前期比26.6%増

○国内の建材・建装材、自動車市場、電材市場総じて受注の回復に至らず、原材料価格の下落に伴う製品価格調整の影響で減収
 ○海外の連結子会社においては、タイ国の自動車市場、インドネシアの電線市場、米国の建材及び自動車市場の堅調な需要を取込み、増収増益

2017年3月期 業績予想

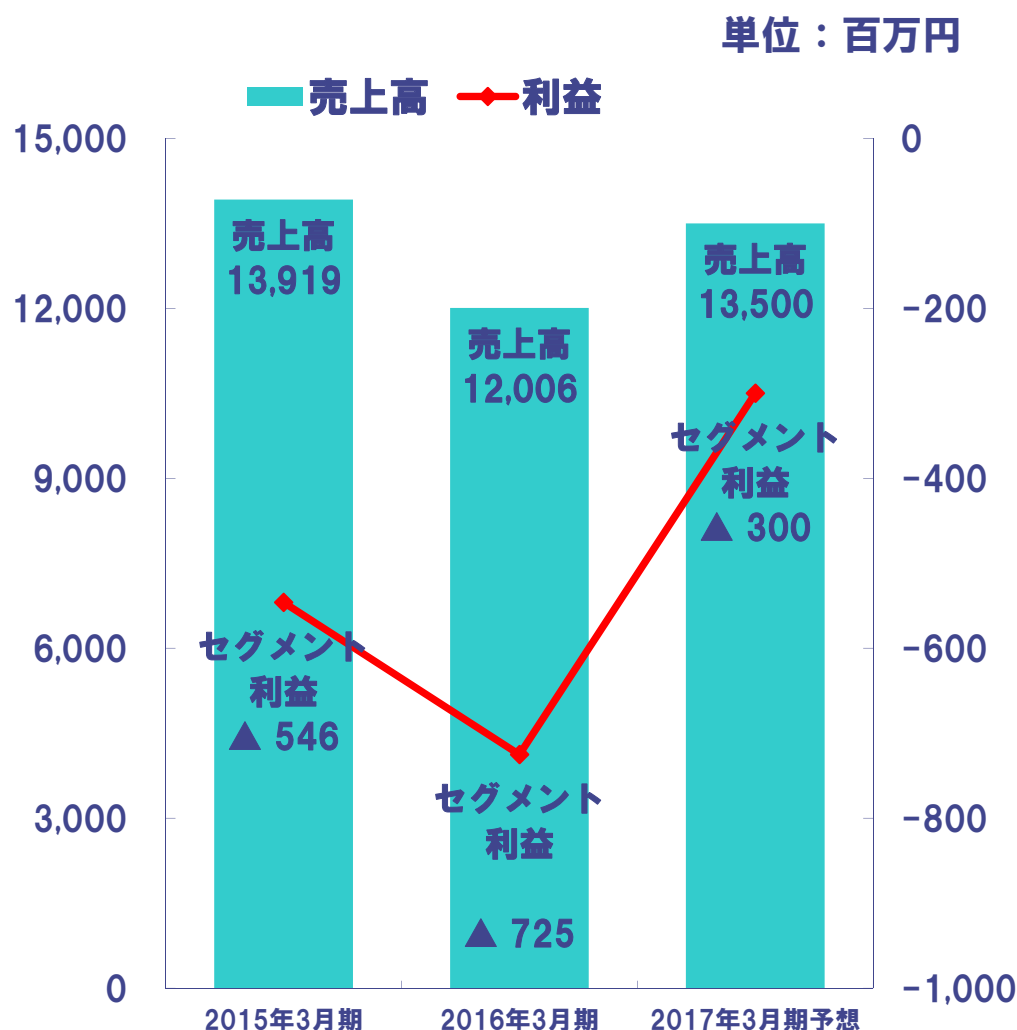
610百万円増収

67百万円増益

前期比1.0%増

前期比1.3%増

○為替と製品価格調整の影響が引き続きあるが、主に海外で投資した設備を活用し重要エリアでの需要の確実な取り込みによる増収増益



2016年3月期

▲1,912百万円減収

▲178百万円減益

前期比13.7%減

- 国内の建材・建装材市場では、住宅着工伸び悩み減収
- 輸出は、欧州向けにおいて安価品の流入及び大手顧客の在庫調整により減収
- 海外でのOEM生産にて量産開始
- 光学市場では、新製品開発に注力(開発コスト12億円)し一部販売を開始
- 会計ルールを厳格に適用し減損実施(特別損失)

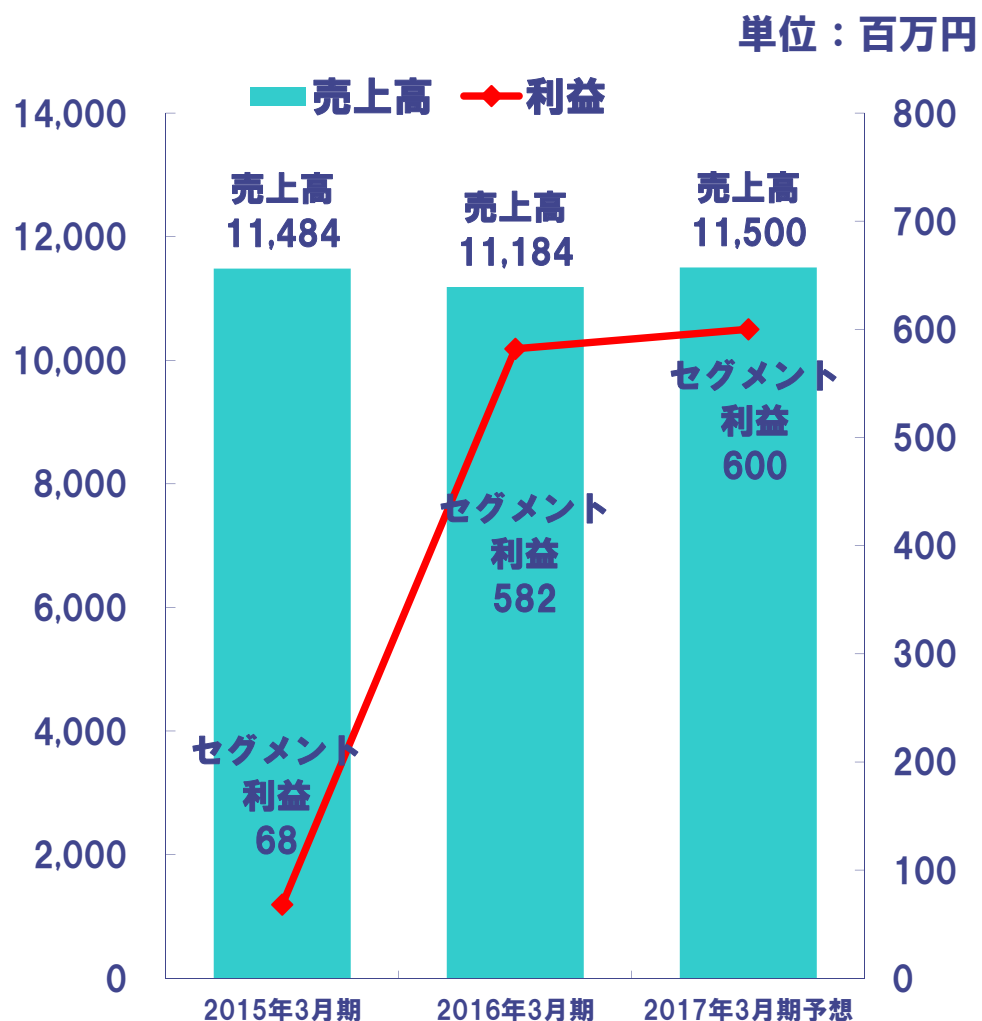
2017年3月期 業績予想

1,493百万円増収

425百万円改善

前期比12.4%増

- 回復基調の建装材市場での需要の取り込みによる増収
- 光学市場での流動開始による増収、収益改善



2016年3月期

▲289百万円減収

513百万円増益

前期比2.6%減

前期比750.0%増

○国内販売は需要期の天候不順、低採算商品の見直しにより減収。

○国内収益は赤字品目の削減、生産コスト・販売管理費の削減に加え、原材料価格の低下により改善。

○中国現地法人は代理店と連携が奏功。

2017年3月期 業績予想

315百万円増収

17百万円増益

前期比2.8%増

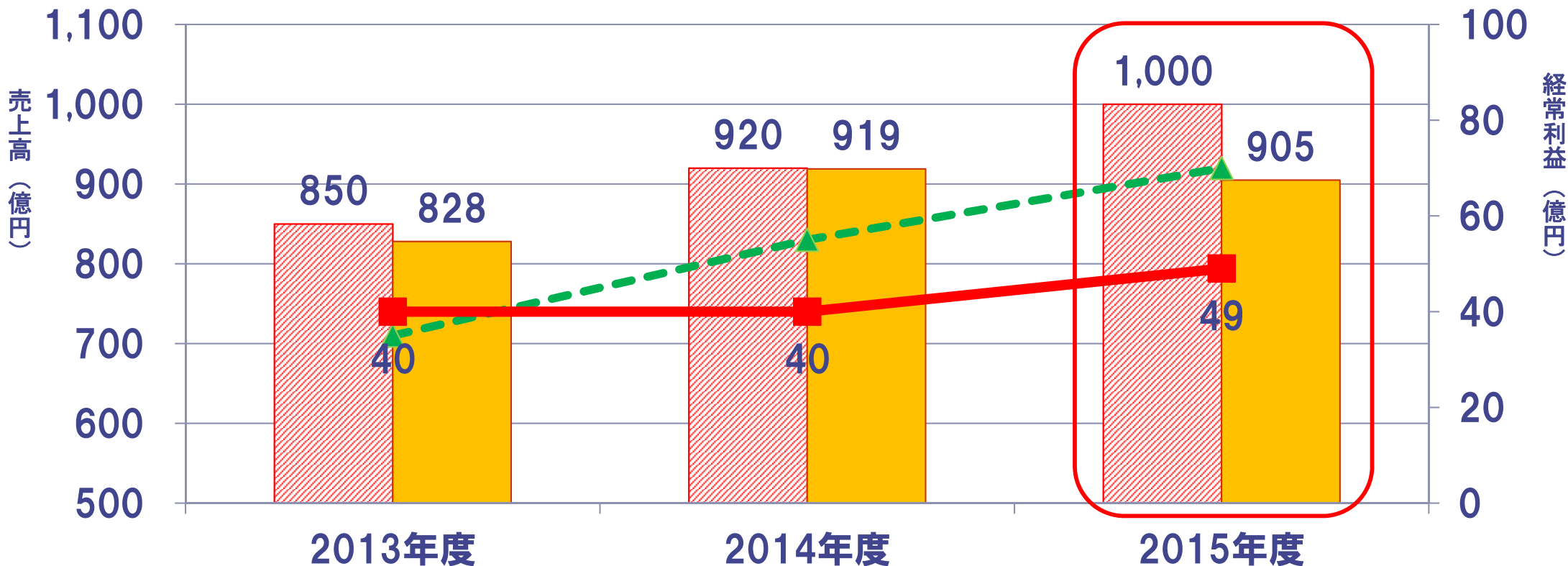
前期比3.1%増

○国内は塩ビ化の推進、生産コスト・販売管理費の削減を更に進める。

○中国の連結子会社は代理店と連携を継続・強化。

前3カ年中長期経営計画 (2013年度～2015年度) 結果

▨ 売上高(計画)
 ■ 売上高(実績)
 ▲ 経常利益(計画)
 ■ 経常利益(実績)

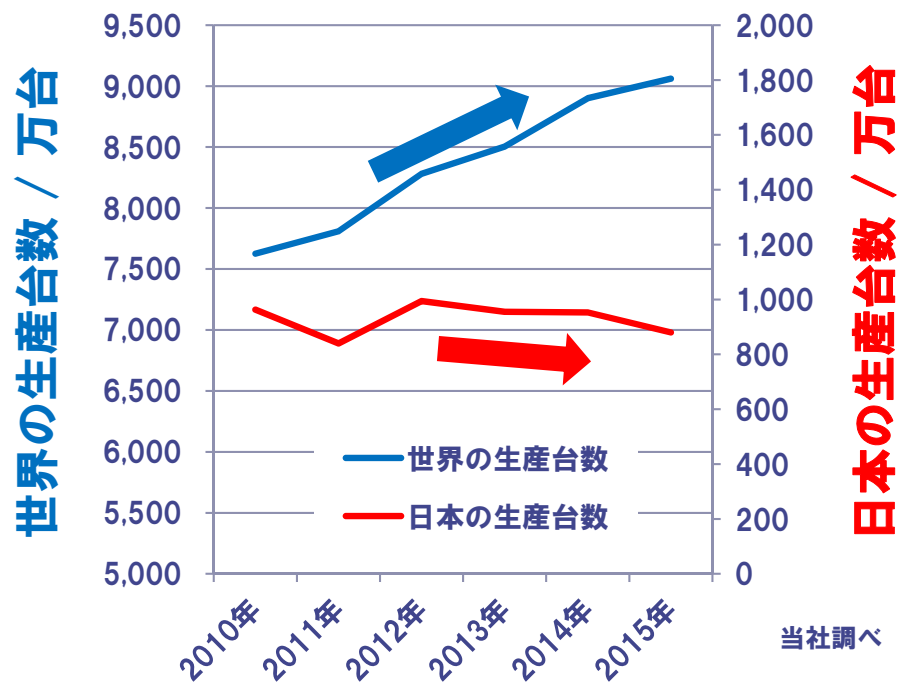


計数目標 未達要因

売上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原材料価格の下落による製品価格の調整 ・ 国内の景気回復の遅れ
利益	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光学製品の開発経費の増加

	主要課題	達成度	実績
①	コンパウンド事業の更なるグローバル展開	○	インドネシア医療用ライン稼働、ベトナム工場着工、中国増設ライン着工、北米エラストマー増設ライン稼働、北米塩ビ増設ライン着工
②	フィルム事業の抜本的な立て直し	△	既存事業の安定黒字化実現 光学事業への積極的な市場開拓とサンプルワーク開始
③	ソリューション事業の事業化実現	△	マーケティング活動を積極的に実施し、ポートフォリオの絞り込み実施
④	最適な営業推進体制の構築	○	市場別型組織であるビジネスユニット制を導入し、マーケットインの営業を実現
⑤	徹底した人材育成	△	海外拠点への若手の派遣 マネジメント研修の実施

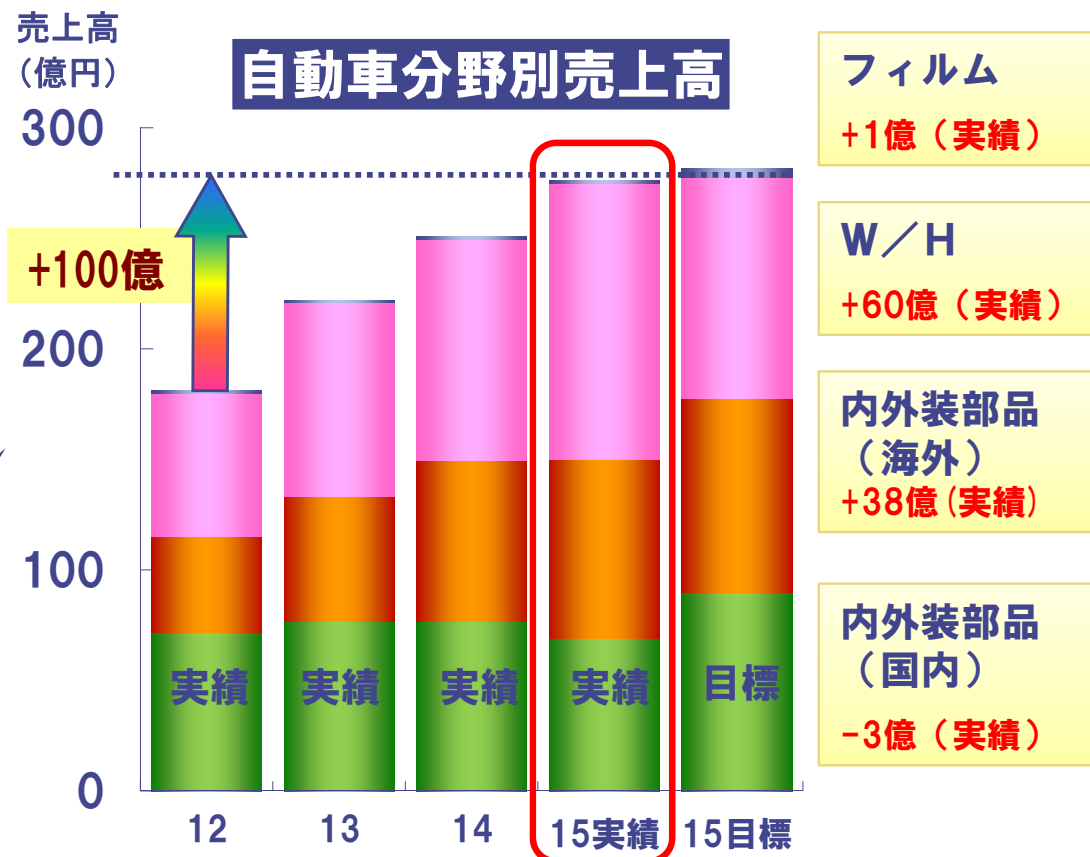
市場動向データ



市場ニーズ(電線の軽量化、PVC回帰)を的確に捉え、各分野の販売戦略にて、売上の拡大を進めた。

自動車市場での売上結果

2015年度売上目標：280億円
 ⇒ 2012年度売上比：+100億円
 2015年度売上実績：276億円



ターゲット



血液回路

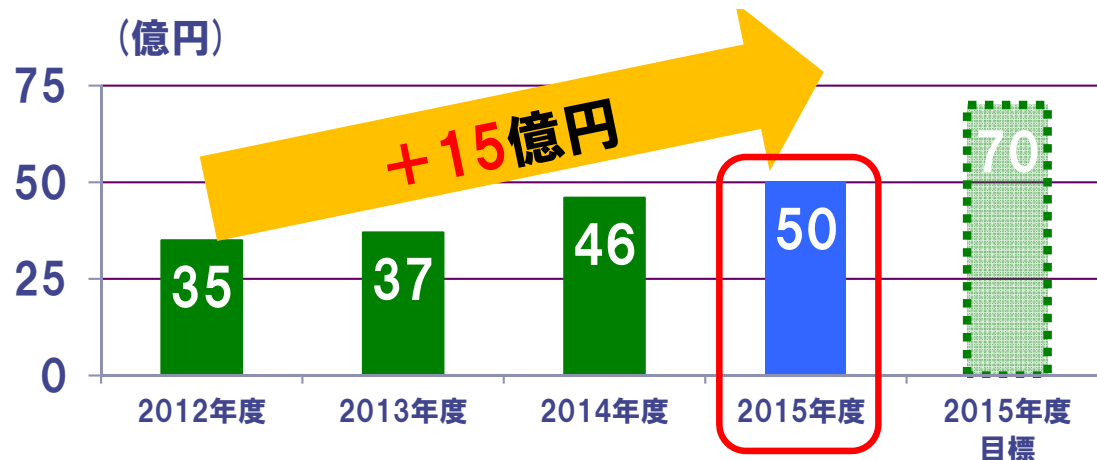
当社の強み

- ・各生産拠点から高品質かつ同一品質の材料を安定供給
⇒リケンの「**グローバル品質**」
- ・各生産拠点に最適な原材料を調達
⇒リケンの「**グローバル調達**」

戦略

- ・日系メーカーとのパートナーシップ強化
⇒ 量的営業により、**輸液用ゴム栓の量産サンプル開始**
- ・販売統括会社を活用した非日系メーカー（欧米・中国）への拡販
⇒ **非日系メーカーへの量産販売開始**

医療ヘルスケア市場での売上結果

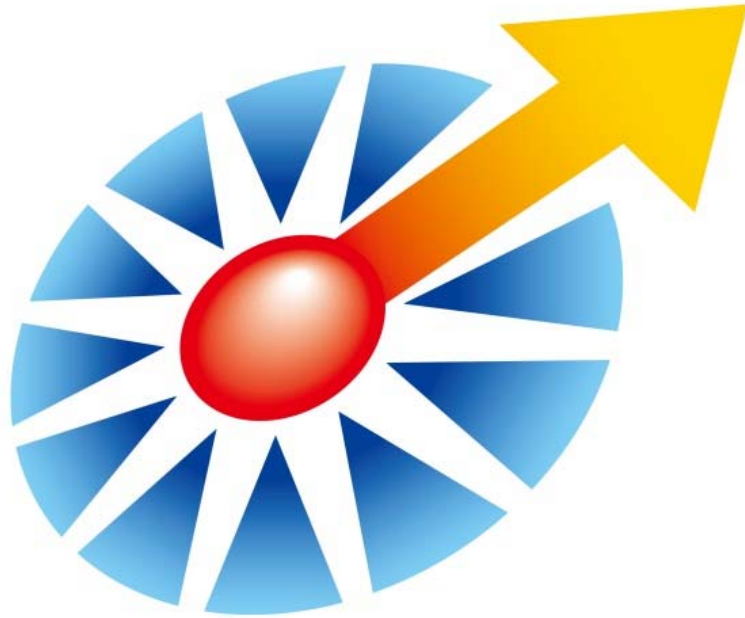


REPTY®DC100 結果

項目	2013	2014	2015	2016
マーケティング	▶			
新設ライン導入、量産性確立		▶		
加工サプライチェーン確立			▶	
サンプル出荷		▶		
一部量産販売			▶	
イノベーション製品への採用				▶
リケンテクノスブランド向上		▶		



新3カ年中長期経営計画 (2016年度～2018年度) 概要



**ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018**

今動き出せ！仲間と共に！

～すべての生活空間に快適さを
提供するリーディング
カンパニーを目指して～



Material
Solution
Supplier

2010年度-2012年度

「もの造りの原点」に立ち返り、
お互いの「信頼感」を基礎にした
力強い企業として再生する

- ・三井化学ファブロ買収によるリケンファブロ誕生

2013年度-2015年度

Dimensional Change

グローバル、更なるスピードアップ

- ・コンパウンド事業の更なるグローバル展開
- ・最適な営業推進体制の構築
- ・フィルム事業の光学分野への投資

ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

2016年度-2018年度

ACT NOW! ACT TOGETHER! 2018

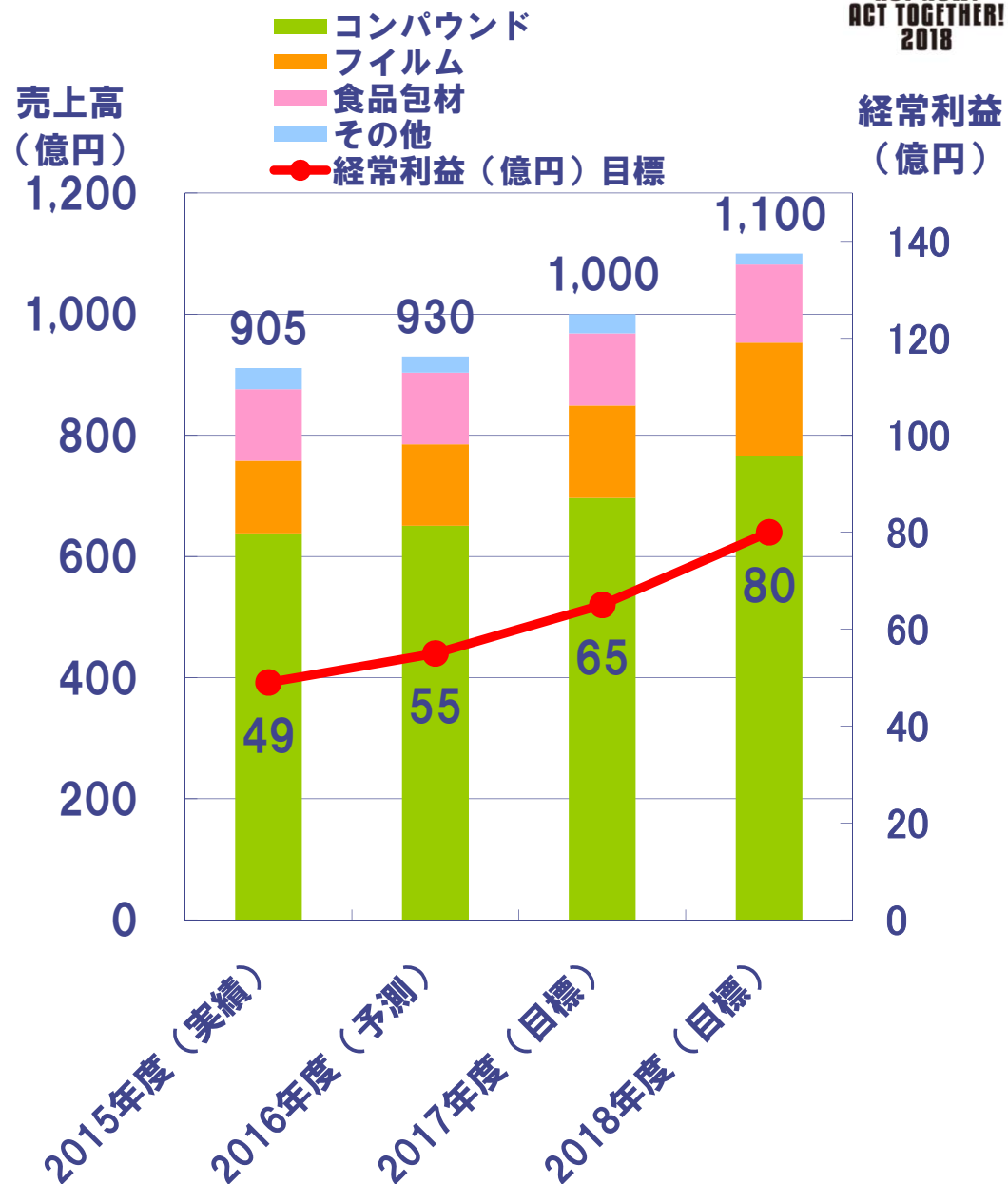
今動き出せ！仲間と共に！

～すべての生活空間に快適さを提供する
リーディングカンパニーを目指して～



ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

(連結ベース)	2015年度 (実績)	2018年度 (最終年度 目標)
売上高	905億円	1,100億円
営業利益	50億円	80億円
経常利益	49億円	80億円
当期純利益	24億円	45億円

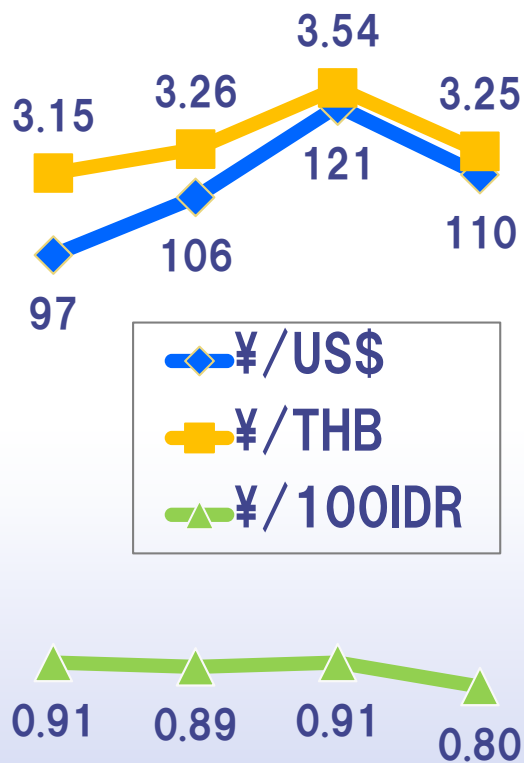




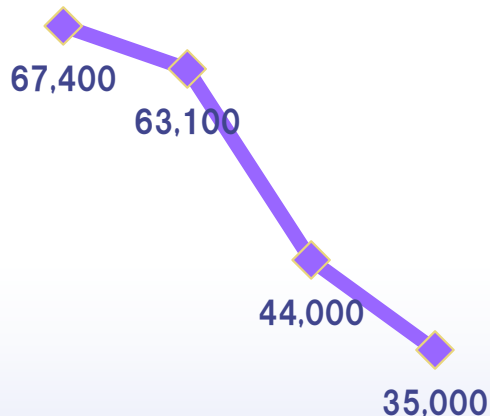
ACT NOW!
ACT TOGETHER!
2018

前提条件

為替の推移



国産ナフサ 推移 (¥/KL)



3カ年の成長率

◆売上数量 ■売上高

2015年度比
31%アップ

2015年度比
21%アップ



- ① 全事業のグローバル経営の深化
- ② 収益力・財務体質の強化
- ③ 革新的な生産体制の創造
- ④ 光学分野における事業化の確立
- ⑤ 戦略的な人材育成による企業基盤の強化

ROS

売上高営業利益率

7%

※5.6%

ROA

総資本経常利益率

10%

※5.8%

ROE

株主資本純利益率

8%

※6.2%

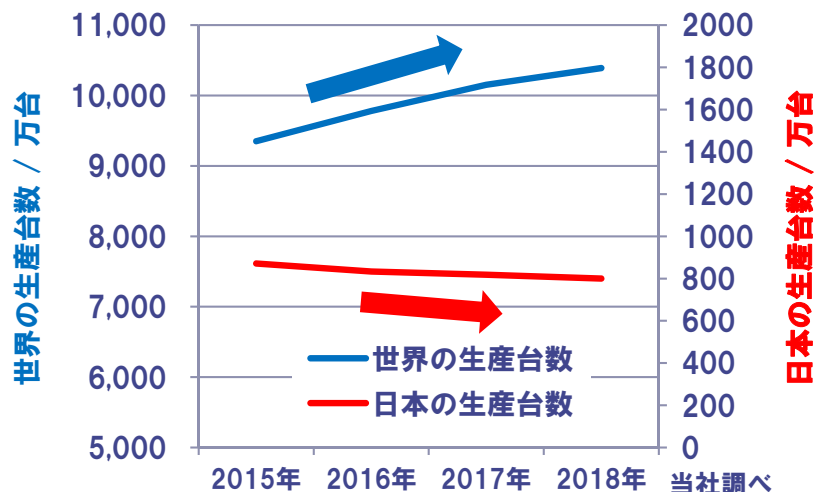
事業戦略

アジア・北米市場における
圧倒的な存在感の確立



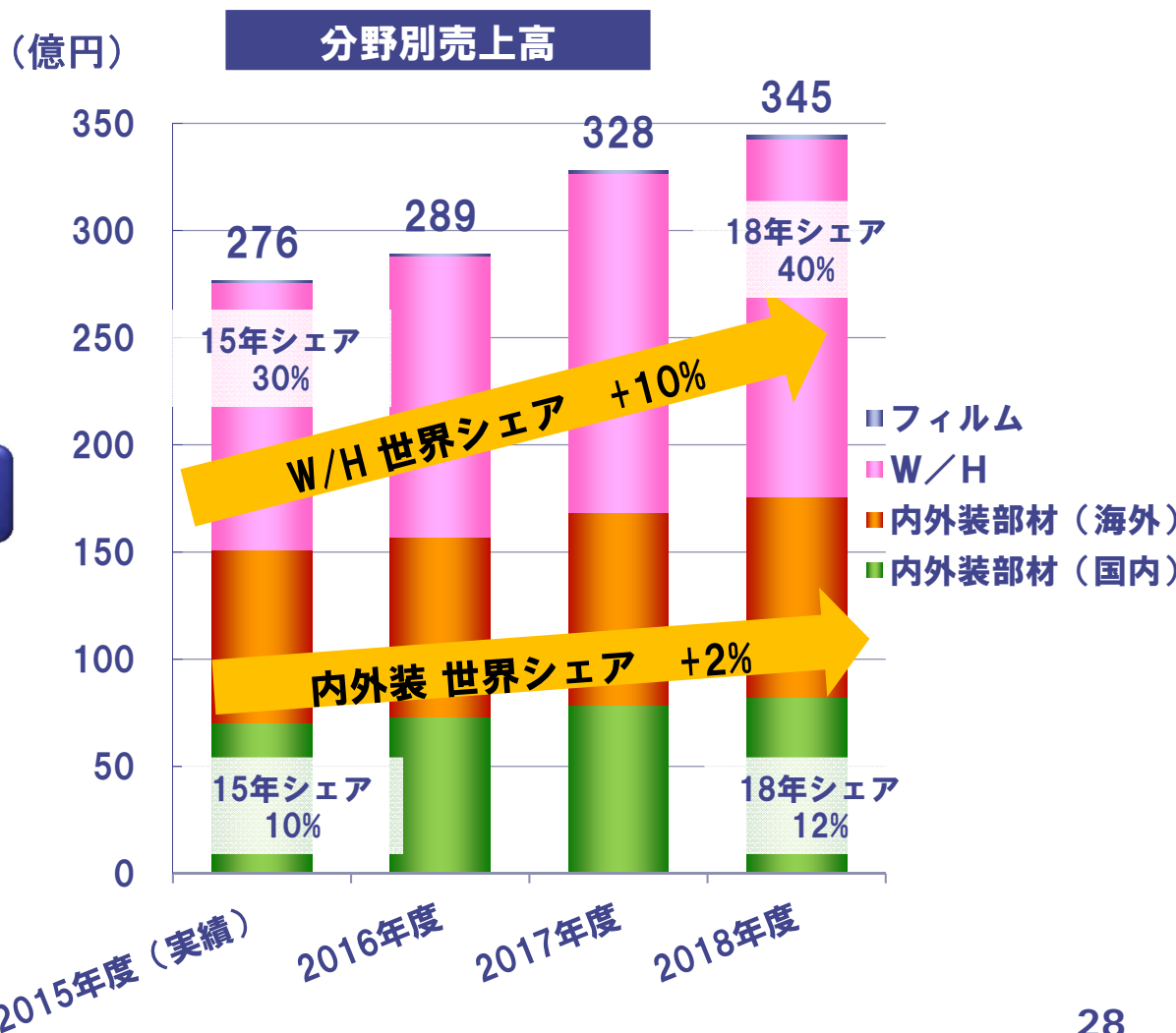
- ◆日系W/Hメーカーの商権拡大
- ◆内外装材の商権拡大
- ◆新製品(機能部品・加飾フィルム)の開発と商権獲得
- ◆非日系顧客獲得のための足掛かりを構築

市場動向(予測)



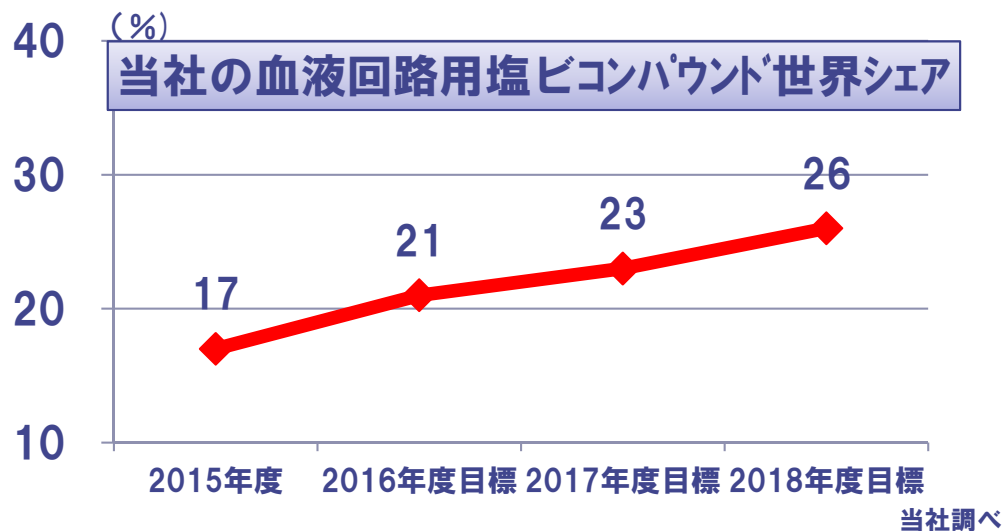
売上高目標

2018年度：+69億（目標） 25% UP (15年比)



グローバル展開

◆グローバル拠点と協業し、アジア市場を凌駕

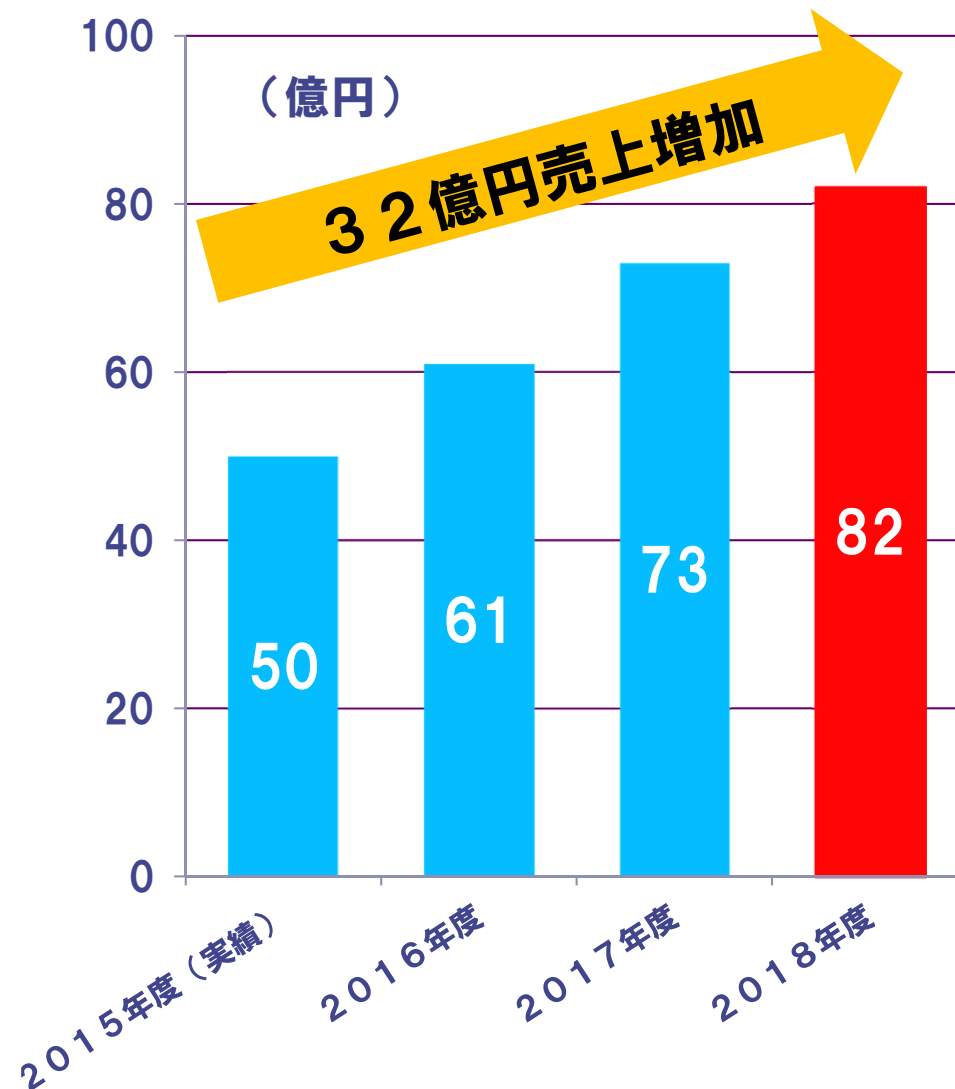


新市場の開拓

- ・医療用フィルム
- ・バイアル容器
- ・プレフィルドシリンジガセット

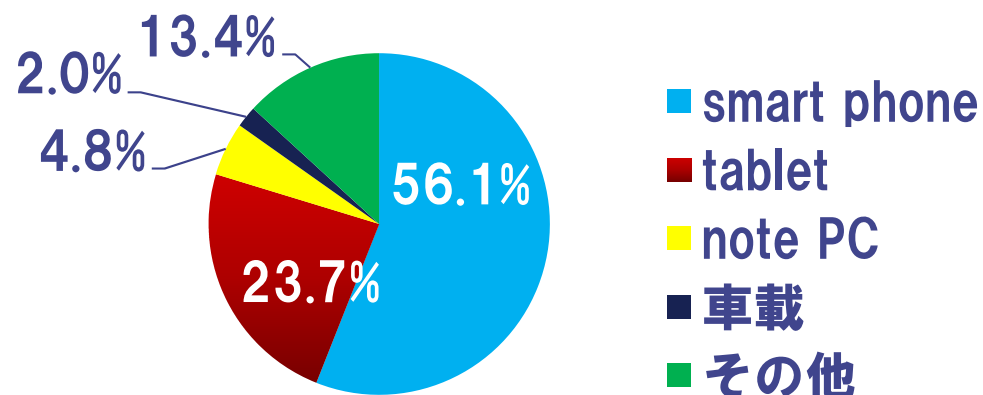


医療用売上高目標



タッチパネルの市場動向

2016年度（出荷台数予測）



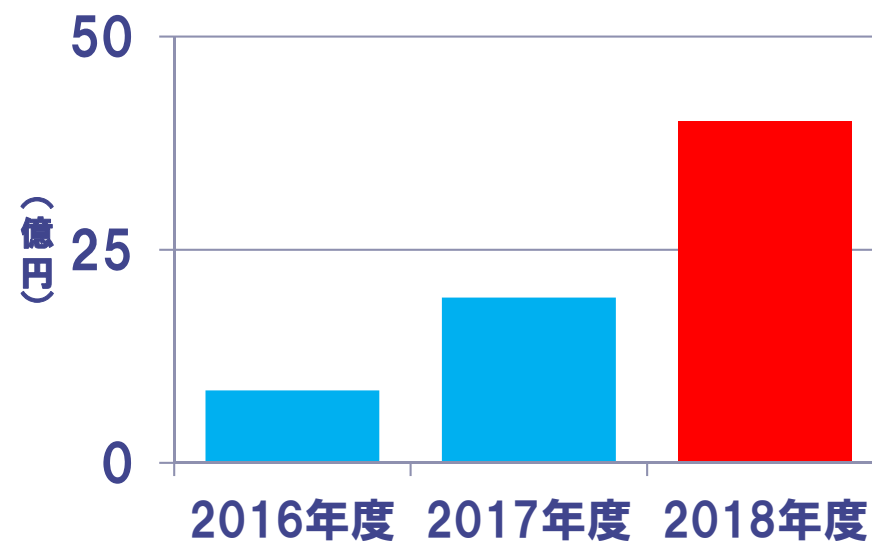
用途	ガラス面積	比率	ガラス売上
smart phone	16,064千m ²	56.1%	668億円
tablet	6,790千m ²	23.7%	279億円
note PC	1,454千m ²	4.8%	54億円
車載	585千m ²	2.0%	32億円
モニター	825千m ²	2.9%	35億円
その他	2,946千m ²	13.4%	159億円
計	28,684千m ²	100%	1,192億円

※出典：富士キメラ総研

事業戦略

- ・REPTY®DC100の優位性を生かした未来製品創出
- ・REPTY®DC100の多様な市場展開

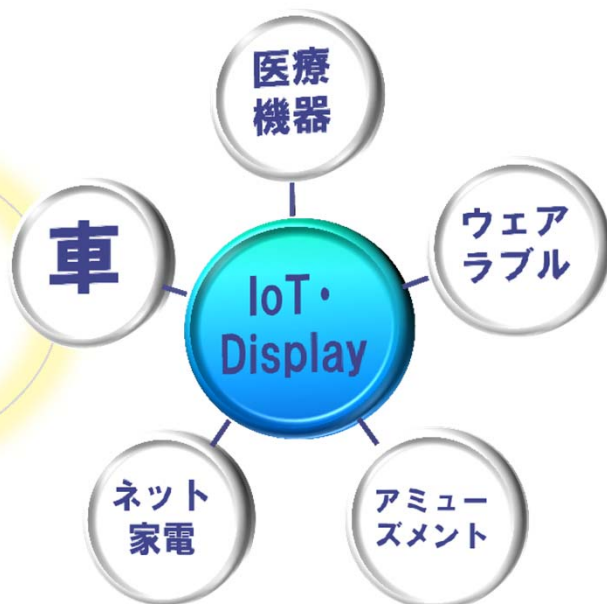
売上高目標



イノベーション創出

商品展開例

生活空間
の変化を
先取り



車載用曲面ディスプレイ



家電用大型タッチパネル



産業用デジタルサイネージ

スマートウィンドウ

DC100機能の拡張

反射防止タイプ、防眩タイプ、耐スクラッチ向上、耐候性強化、ガスバリア性付与、3D成型タイプ

塩ビ化の推進

リーディングカンパニーとしての顧客・技術対応力を活かし、塩ビ化の推進を行う。
非塩ビ市場に対して積極的に塩ビの安全性・優れた包装適性の情報発信していく。



2018年度にはシェア**50%**を目指す



業務用ラップ市場のドミナントとなる。

隣接市場への事業拡大

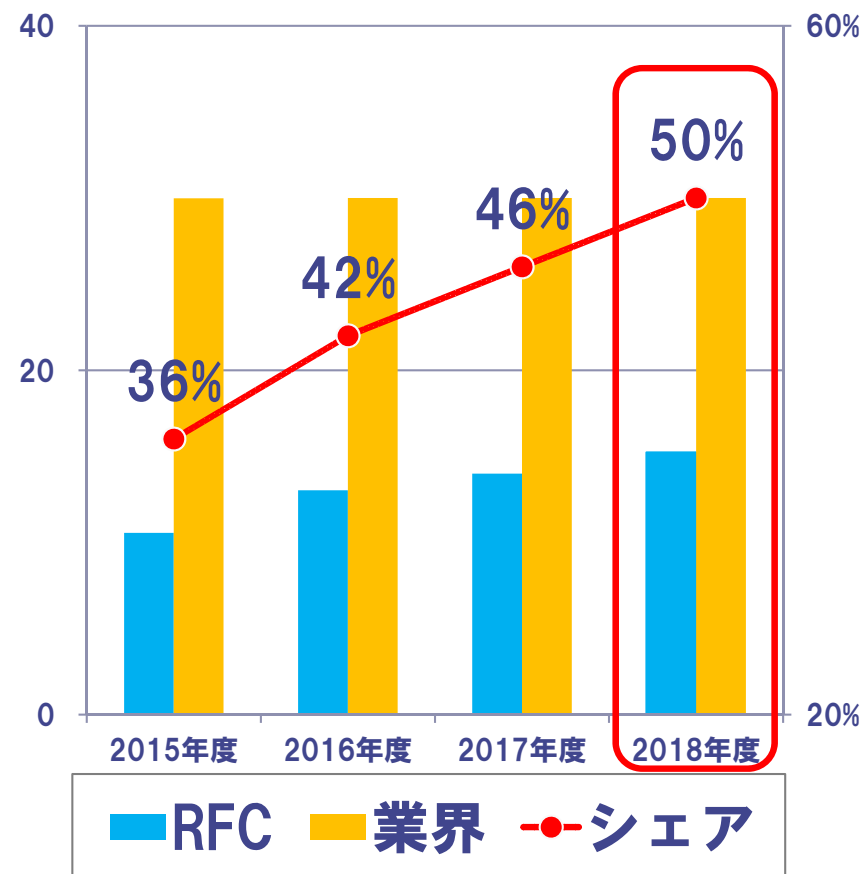
既存顧客であるスーパー、外食産業、ホテルの調達資材をターゲットとし、**取り切れていないニーズを掘り起す**。食品ラップのノウハウを活かし参入を検討・事業化をすすめる。



計数目標

業務用塩ビラップの計数計画とシェア目標

単位：千t





◆建設全般

スタジアム、都市整備、選手村、ホテル建設
・改装

◆インフラおよび設備改良需要

都市整備、鉄道、空港、一般公道（高速道路）
防護壁、電線地中化、通信関係（テレビ、海外放送等）

◆スポーツ用品



フィルム
高級壁装材

コンパウンド
建設電販
目地材
生活資材

海外拠点との協業による(戦略市場)拡販とグローバルネットワーク構築
未開拓・未進出地域の市場調査と非日系メーカーへの拡販
革新的な生産体制の創造



アジア

ベトナム
塩ビ 新設工場稼働開始

ベトナム 塩ビライン 増設検討

中国
塩ビ 増設ライン稼働開始

タイ エラストマーライン 増設検討

エラストマーライン 増設

タイ 医療用塩ビライン 増設検討

医療用塩ビライン 増設

海外売上高
比率(実績)
47%

インドネシア 生産性改善設備導入

一般塩ビライン 増設検討

一般塩ビライン 増設

アジア フィルム市場調査

フィルム海外生産拡大

北米

米国
塩ビ新設ライン稼働開始

コモディティ市場調査

米国 塩ビライン 増強検討

米国 エラストマーライン 増設検討

海外
売上高
比率
**55%
以上**



3年間での設備投資合計：160億円（国内：67億円、海外：93億円）

単位：億円 ※メンテナンスを含む。

年度	主な設備投資	総額	減価償却費	研究開発費
前3ヵ年 (実績)	国内エラストマー、光学フィルム増設 インドネシア一般・医療用コンパウンド 新設、中国塩ビ増設、米国塩ビ・エラス トマー増設、ベトナム塩ビ新設	144	33 (2015年度 実績)	13 (2015年度 実績)
2016年度 (計画)	中国塩ビ増設、米国塩ビ増設、 ベトナム塩ビ新設	70	36	13
2017年度 (計画)	タイエラストマー増設、インドネシア塩 ビ増設、米国塩ビ増設	40	35	13
2018年度 (計画)	タイ塩ビ増設、インドネシア塩ビ増設、 米国エラストマー増設、国内設備	50	35	14

配当金

連結配当性向30%程度を一つの目途

安定配当

(円)

	中間	期末	通期	年間配当性向 (連結)	純資産配当率 (%)
2013年3月期	4.00	5.00	9.00	40.2	1.6
2014年3月期	4.00	5.00	9.00	28.0	1.5
2015年3月期	4.00	5.00	9.00	28.4	1.4
2016年3月期 (予定)	5.00	5.00	10.00	24.1	1.5
2017年3月期 (予想)	5.00	6.00	11.00	25.4	-

配当方針：連結配当性向30%程度を一つの目途とした上で、今後の事業投資・自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行う

※2017年3月期（予想）における配当性向及び純資産配当率は、5月末現在で把握可能な数値にて試算しております。

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経理部 高見